**２０２３年７月29日(土)　与良館会場**

 伊藤伊那男

 木漏日や端居に探す虚子の跡 原水和実

 銭蔵の南京錠や鉄線花 野中　威

〇 蟬声や懐古の螺子を巻き直す 萩原陽里

 白濁の電球ふたつ夏座敷 原水和実

 おうおうと打水屋号飛び交ひぬ 野中　威

 野中　威

〇 入りたる虚子門といふ片かげり 伊藤伊那男

 白濁の電球ふたつ夏座敷 原水和実

 瑠璃蜥蜴いれて虚子の碑撮り直す 大矢知順子

 店涼し遠近で蕎麦啜る音 萩原陽里

 夏蝶の行きつ戻りつ野面積 原　水和実

 内堀たづ子

 入りたる虚子門といふ片かげり 伊藤伊那男

 蔵食堂喰らふパスタのトマト味 高田　峰

〇 片陰も枡形添ひに城の町 伊藤伊那男

 夏の蝶一坪花壇にしきりなる 三上朋子

 青柿や白き土蔵の高き窓 野中　威

 三上朋子

 畑土のやつるる草に大西日 原　水和実

 姥百合の三方を指す分れ道 浅野幸枝

 片陰も枡形添ひに城の町 伊藤伊那男

 一閃の山翡翠の空領す 海野良三

〇 青柿や白き土蔵の高き窓 野中　威

 浅野幸枝

〇 片陰も枡形添ひに城の町 伊藤伊那男

 おうおうと打水屋号飛び交ひぬ 野中　威

 出で立ちは「くの一」の如草を刈る 内堀たづ子

 片陰を拾ふ影踏み遊びめき 伊藤伊那男

 大正の母のロマンスのうぜん花 内堀たづ子

 大矢知順子

 片陰はまたも途切れて時計見る 三上朋子

 姥百合の三方を指す分れ道 浅野幸枝

〇 片陰に虚子の孫弟子その弟子も 伊藤伊那男

 かぶりつくトマトや道の坂がかり 野中　威

 虚子居士もこの片陰に憩ひしか 伊藤伊那男

 萩原陽里

 入りたる虚子門といふ片かげり 伊藤伊那男

 瑠璃蜥蜴いれて虚子の碑撮り直す 大矢知順子

〇 片陰も枡形添ひに城の町 伊藤伊那男

 出で立ちは「くの一」の如草を刈る 内堀たづ子

 片陰を拾ふ影踏み遊びめき 伊藤伊那男

 原　水和実

 片陰も枡形添ひに城の町 伊藤伊那男

 蟻の列影も日向も無き配置 萩原陽里

〇 青芝の歩きにくさうナナフシ来 浅野幸枝

 浅間嶺の裾まはり込む朝の霧 萩原陽里

 一閃の山翡翠の空領す 海野良三

 海野良三

 蟬声や懐古の螺子を巻き直す 萩原陽里

 足一本足らぬ竹節虫夏の果 浅野幸枝

〇 瑠璃蜥蜴いれて虚子の碑撮り直す 大矢知順子

 沢音の大緑蔭を去りがたく 山本道子

 出で立ちは「くの一」の如草を刈る 内堀たづ子

 山本道子

 浅間嶺の裾まはり込む朝の霧 萩原陽里

 道の辺の木椅子にリュック風灼けて 大矢知順子

〇 片陰はまたも途切れて時計見る 三上朋子

 虚子居士もこの片陰に憩ひしか 伊藤伊那男

 出で立ちは「くの一」の如草を刈る 内堀たづ子

 高田　峰

〇 おうおうと打水屋号飛び交ひぬ 野中　威

 銭蔵の深き底より涼気立つ 原　水和実

 白濁の電球ふたつ夏座敷 原　水和実

 入りたる虚子門といふ片かげり 伊藤伊那男

 片蔭の幅に行列整ひて 浅野幸枝